

「因果関係の難しさ」

お仕事なので責めるつもりはありませんが、スポーツの試合が負けて終わると一斉に専門家が敗因を分析します。多くは監督の采配に原因を求めるのですが、「もっともだ」ということも少なくありません。

私も指導者の時は「負けはすべて監督の責任」と選手に話していましたから、自分の指導に従って負けた以上、監督が責を負うことは当然だと思っています。

それでもネットなどで「あそこであの選手を起用すべきだった」と、いかにもそれが敗因であるかのように解説者が語るとか、近頃はまったく専門外のインフルエンサーが発信したりすることもありますよね。

試合に勝つ、負けるはものすごくたくさんの要素が絡み合って決まります。1つの原因が負けに結びつく要素であったとしても、それがなかったら勝っていたかということそうではありません。

人間の脳は単純なストーリーを求めがちです。「あの選手がケガで出られなかったから負けた」とか「あの選手をはじめから起用しなかったから負けた」というのはわかりやすく、受け入れることが容易なのですが、勝負の因果関係は力の差が小さいほどたくさんあることが普通です。

スポーツに限らず因果関係は物語のように単純ではありません。健康診断で数値が良くなかったときに「あれが良くなかった」と思い込みがちですが、実際は加齢であったり、食事であったり日々の積み重ねが原因だったりします。

最近のネット記事は一つの因果関係をすべてであるかのように語る人間が多いような気がします。大国の大統領が、敵対視する国との関係を知り合いとケンカでもしているようにSNSにアップしますが、国と国の関係がそのような単純なものであるはずがありません。

日本のネット記事でも同様な傾向があります。質の悪いことに一度その記事に目を通すと同じような主張がエコーチェンバーによって集まってきます。その因果関係が絶対的に正しく、失敗の責任はすべてその人にあるとばかりに責め立てる構図が出来上がります。

世界は複雑かつ偶然でできています。疑わしい主張には「その人の言うとおりにしたら結果は本当に変わるのか」とことん考察してみてください。ほぼすべてのケースで簡単に不確定要素が見つかるはずです。他人を攻撃している間は自分が攻撃されないという人間の弱みについているのだと思います。